

令和8年度全国学力・学習状況調査結果分析（詳細版）



令和8年10月
松阪市教育委員会

目次

1. 令和8年度全国学力・学習状況調査の概要	1
2. 教科に関する調査結果	3
・小学校	4
・中学校	6
3. 児童生徒質問調査結果	9
(1) 基本的生活習慣、学習習慣等	
(2) 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等	
(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	
(4) 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳	
(5) 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語、算数・数学、英語）	
(6) ICTを活用した学習状況等	
(7) 地域や社会に関わる活動の状況等	
4. 学校質問調査結果	12
(1) 校内体制及び学校間連携等	
(2) 家庭や地域との連携等	
5. 成果につながったと考えられる松阪市の取組	13
6. 調査結果の分析	14
(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	
(ア) 学習に対する興味・関心や授業の理解度等	
(イ) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	
(ウ) 総合的な学習の時間における探究の過程	
(エ) ICTを活用した学習状況	
(2) カリキュラム・マネジメントの確立	
(ア) 教科等横断的な視点	
(イ) PDCAサイクルの確立	
(ウ) 地域との連携	
(エ) 家庭との連携	
7. 全国学力・学習状況調査結果を踏まえた今後の主な取組	23



用語説明

語句	説明
平均正答率	市内小中学校の平均正答率を百分率で表示。国語・算数（数学）の平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）。
IRTスコア	中学校英語のIRTスコアは、IRT（項目反応理論）に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表されたもの。※P.2を参照
肯定的な回答	質問調査において、例えば「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」の選択肢がある場合、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の回答を示す。

1. 令和8年度全国学力・学習状況調査の概要

1

調査の目的

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る

学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる

そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

児童生徒一人一人が自らの学習状況を把握し、学習改善や学習意欲の向上につなげる

調査の概要

調査実施日	令和8年4月23日（木） ※小学校の児童質問調査は4月24日（金）～5月8日（金）のうち、1日 ※中学校の生徒質問調査は4月20日（月）～4月23日（木）のうち、1日 ※英語調査は4月20日（月）～5月29日（金）のうち、1日
調査対象	小学校調査 31校 第6学年 1,148人 中学校調査 11校 第3学年 1,200人
調査事項	小学校調査 教科調査（国語、算数） / 質問調査 中学校調査 教科調査（国語、数学、英語） / 質問調査
今年度の調査の特徴	・中学校・英語【4技能（聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと）】の全面CBT化 ・小学校・児童質問でのランダム方式の導入

教科に関する調査結果概要

小学校平均正答率

	国語	算数
松阪市	64.1	58.9
三重県	61.1	55.0
全国	60.9	56.4
全国との差	+3.2	+2.5

中学校平均正答率・IRTスコア

	国語	数学	英語 4技能 (IRTスコア)
松阪市	62.7	56.8	481
三重県	62.2	56.2	492
全国	63.9	57.0	499
全国との差	-1.2	-0.2	-18

1. 令和8年度全国学力・学習状況調査の概要

2

中学校英語調査について



令和8年度調査では、令和7年度中学校理科調査に続き、中学校英語調査の4技能にIRTが導入された。IRTとは、国際的な学力調査（PISA・TIMSSなど）や英語資格・検定試験（TOEIC・TOEFLなど）で採用されているテスト理論である。

IRTとは

- ・ Item Response Theory：項目反応理論
- ・ 児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、識別力）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。

<視力検査を例としたイメージ>

	素点方式（正答数・正答率）	IRT方式
得点(スコア)の表現方法	何個のランドルト環（C） を見ることができたか	どの大きさのランドルト環（C） を安定的に見ることができたか
得点(スコア)の例	0.1 0.2 0.3 0.4 5問/7問 (正答率71%) 0.1 0.2 0.3 0.4 4問/7問 (正答率57%)	0.1 0.2 0.3 0.4 0.2 0.1 0.2 0.3 0.4 0.3

引用：文部科学省「中学校理科」 IRTを用いた結果返却に関する説明資料

素点方式

Aさんの方が正答数（見ることができたランドルト環の数）・正答率が高くなる。

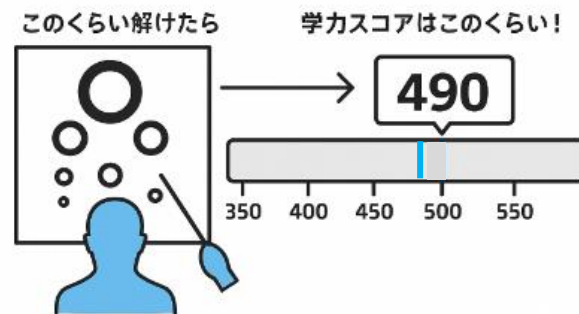
IRT方式

Bさんの方がスコア（視力）が高くなる。

IRTスコア

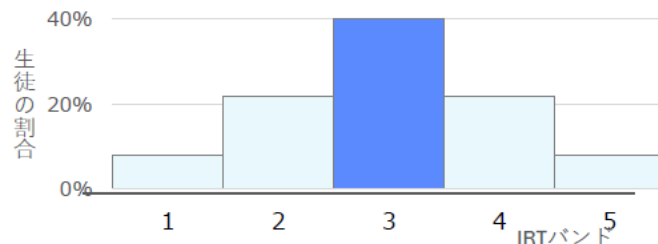
- ・ IRTに基づいて各設問の正誤パターンから学力を推定し、500を基準にした得点で表されたもの。

<IRTスコアのしくみ>



IRTバンド

- ・ 個人の結果は下記のような5段階のIRTバンドで表示・返却される。
- ・ 3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなる。



引用：文部科学省「中学校理科」 IRTを用いた結果返却に関する説明資料

2. 教科に関する調査結果

3

小学校 成果と課題

国語	○話や文章の種類とその特徴について理解することが概ねできている。【3一】 ●資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題がある。【1二（1）】
算数	○示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述することが概ねできている。【4（1）】 ●二次元の表から、条件に合う数を読み取ることに課題がある。【4（3）】

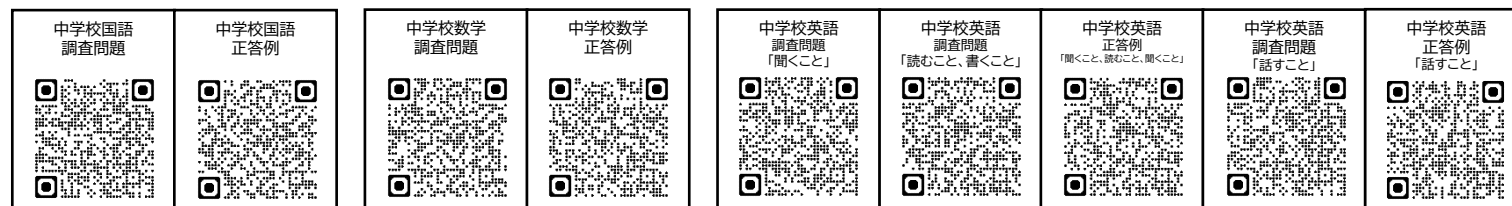
※【 】内は問題番号



中学校 成果と課題

国語	○単語の活用について理解することが概ねできている。【1三】 ●互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることに課題がある。【2四】
数学	○具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すことが概ねできている。【1】 ●統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。【6（3）】
英語	○日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることが概ねできている。【3】 ●音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用することに課題がある。 【11①②】

※【 】内は問題番号



2. 教科に関する調査結果（小学校国語）

出題の趣旨 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる

1 二（1） 【動画の一部】の工夫として適切なものを選択する

令和8年度
【小学校国語】
報告書 大問1
授業アイデア例



国立教育政策研究所

正答

2と5

	松阪市	全国
正答率	56.0	60.2
無解答率	0.1	0.6

- 1 草花で遊べる場所への行き方を映像で示すことで、草花遊びへの関心を高めている。
- 2 くき笛の実際の音を示すことで、言葉の説明だけでは分かりにくい内容が伝わるようにしている。
- 3 くき笛を作る映像に文字の説明を加えて示すことで、遊び方の手順が伝わるようにしている。
- 4 くきの長さを映像で比べて示すことで、くき笛にしやすいたんぼぼを見分けやすくしている。
- 5 手元や口元を大きく映して映像で示すことで、くき笛の遊び方が伝わるようにしている。

一 岡野さんたちのグループは、【動画の一部】をくふうしてさつえいしました。そのくふうとして適切なものを、次の1から5までの中から二つ選んで、その番号を書きましょう。

【動画の一部】

映像	音声
	岡野・水谷「音を鳴らして遊ぼう。」
	岡野 「みなさん、この音を聞いてください。」 『ピー♪（くき笛の音）』 岡野 「これは何の音だと思いますか。」
	水谷 「これはたんぼぼで作ったくき笛の音です。」 岡野 「どうしたらこんな音が出るんですか。」
	水谷 「くき笛は、たんぼぼの花の部分を取りのぞいて」
	水谷 「片方のくきの先をつぶして作ります。」
	水谷 「つぶした方をくちびるでくわえ、風船をふくらませるように息をふきこむと」 『ピー♪（くき笛の音）』
	水谷 「このように音を出すことができます。」 水谷 「くきの長さが変わると、音の高さも変わります。いっしょにふいてみましょう。」 『ピー♪（くき笛の音）』『ポー♪（くき笛の音）』
	岡野 「友達といっしょに音を鳴らすと音が重なって、とても楽しいですね。」

岡野さんたちのグループは、【構成メモ】をもとに、「中①」を次の【動画の一部】のようにさつえいしました。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

松阪市の児童の
解答状況

「5」を選択しているが、「2」を選択していない誤答の割合が高かった。岡野さんたちが資料を活用する際に、手元や口元を大きく映して映像で示すことで、くき笛の遊び方が伝わるようにしていることを捉えることはできていたが、くき笛の実際の音を示すことで、言葉の説明だけでは分かりにくい内容が伝わるようにしていることを捉えることができなかったと考えられる。

授業改善方策

自分の考えが伝わるように表現を工夫するためには、相手や目的を一層意識し、聞き手の興味や関心や情報量などを予想し、どのような資料を用意すればよいか考えるとともに、伝える目的を意識できるようにすることが大切である。また、補足説明が必要な箇所や言葉だけでは伝わりにくい内容については、どのように資料を活用することが効果的かを考え、資料を提示しながらの話し方について、検討することも大切である。

2. 教科に関する調査結果（小学校算数）

出題の趣旨 二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる

4(3) 二次元の表から、前半にあやとりに参加する人数と、前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数を書く

6年生のさくらさんたちは、1年生と仲良くなるために交流会を計画しています。交流会では6年生と1年生がいっしょにボール遊び、おにごっこ、昔遊びをします。

(3)さくらさんたちは、前半と後半のあやとりやかるたに参加する1年生の人数を下の表にまとめました。

前半と後半の遊びごとの人数 (人)

		後半		合計
		あやとり	かるた	
前半	あやとり	4	9	13
	かるた	8	7	15
合計		12	16	28

さくらさんたちは、あやとりに参加する1年生にひもをわたします。わたすひもの本数を知るために、表からあやとりに参加する人数を調べると次のことが分かります。

前半にあやとりに参加する人数は ㊦ 人です。

前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数は ㊩ 人です。

上の㊦、㊩に入る数を、それぞれ書きましょう

	松阪市	全国
正答率	14.5	17.9
無解答率	3.1	3.9

正答
㊦13 ㊩ 8

令和8年度
【小学校算数】
報告書 大問4
授業アイデア例



国立教育政策研究所

松阪市の児童の
解答状況

㊦を13人と解答しているが、㊩が誤答または無解答になる割合が高い。また、㊩を8人と解答しているが、㊦を4人または9人と解答している児童の割合も高い。このことから、表の一つの項目だけに着目して数値を読み取ることはできても、「前半」と「後半」、「あやとり」と「かるた」という二つの条件を関連付けながら、条件に合う数値を読み取ることに課題があると考えられる。

授業改善方策

データを二つの観点から分類整理する方法について理解し、目的に応じて、二次元の表を作成したり、表から必要な数値を読み取ったりできるようにすることが重要である。指導に当たっては、前半にかるたに参加する人数を二次元の表から読み取る活動が考えられる。その際、読み取りたい場合について二つの項目を順序よく追ったり、読み取った数値がどのような場合なのかを捉えたりできるようにすることが大切である。また、合計はその行や列の数値を合わせた数であることを理解できるようにすることや、二次元の表を作成することを通して、データを二つの観点から分類整理する方法について理解できるようにすることも大切である。

2. 教科に関する調査結果（中学校国語）

出題の趣旨 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるかどうかをみる

2四

話し合いを受けてどのような意見を述べるか、自分の考えを書く

正答例

大森さんの学級のページの載せるという意見に賛成です。いつでもまとめて確認できる方が、みんなが意識できると思うからです。石川さんの呼びかけという伝え方は、形が残らないのですぐに忘れてしまう人もいます。私もしれません。

正答の条件

- ①学級のみんなにどのように伝えたらよいかについて、自分の考えと理由を書いている。
- ②大森さんと石川さんの意見の両方を取り上げながら書いている。
- ③実際に話すように書いている。

【話し合いの一部】で山下さんは、線部④「美しい歌声を響かせよう」という目標に向けて練習するために、学級のみんなにどのように伝えたらよいでしょうか。」と投げかけています。これを受けて、あなたならどのような意見を述べますか。この場の三人に実際に話すように書きなさい。

令和8年度
【中学校国語】
報告書 大問2
授業アイデア例



国立教育政策研究所

〈音楽科の先生に相談すること〉
・歌声に強弱をつけない。
・高い音の部分うまく歌いたい。
・自分たちで取り組むこと
・指揮者をよく見て、歌い出しのタイミングをそろえよう。
・集まったらすぐに練習を始めよう。
・練習後の振り返りのときに、意見や感想を積極的に出そう。

【話し合いを受けて整理した画面】

〈目標を達成するための課題〉
・歌声に強弱をつけられていない。
・高い音の部分うまく歌えない。
・歌い出しのタイミングがそろわない。
・練習を始めるまでに時間がかかる。
・練習後の振り返りのときに、意見や感想が出されない。

【話し合いの一部】

2

合唱コンクールの委員である山下さん、石川さん、大森さんは、学級の目標を達成するための課題についてアンケートをとり、その解決のために、出された意見をタブレット端末上で共有しながら話し合っています。次の「アンケートの結果を示した画面」、「話し合いの一部」、「話し合いを受けて整理した画面」を読んで、あとの問いに答えなさい。



【話し合いの一部】

山下 私たちの学級の目標は、「美しい歌声を響かせよう」です。アンケートで「目標を達成するための課題」として挙げられたものを、タブレット端末で共有したので、画面を見てください。①まずはみんながどんなことを課題として考えているかを整理した上で、どうしていけばよいかを考えませんか。

石川 そうですね。「目標を達成するための課題」を見ると、歌の表現の仕方に関わるものと、練習への取り組み方に関わるものの二つに分けられるのではないのでしょうか。

山下 私もそう思います。例えば、「歌声に強弱がつけられていない」や「高い音の部分うまく歌えない」は、歌の表現の仕方になりますよね。

石川 「歌い出しのタイミングがそろわない」ともそれに入ると思います。そうすると、それ以外の「練習を始めるまでに時間がかかる」、「練習後の振り返りのときに、意見や感想が出されない」は、練習への取り組み方に関わるものになりますね。

山下 まずは、「目標を達成するための課題」を二つに分けられましたね。

大森 では、このあとどうしていけばよいかを考えましょう。私は、歌の表現の仕方に関わるものは、音楽科の先生に相談するのがよいと思います。私もそう思います。ただ、「歌い出しのタイミングがそろわない」については、指揮者をよく見てタイミングをそろえるなど、自分たちで取り組むことができそうな気がします。

山下 そうですね。では、まずは自分たちで取り組んでみましょう。いろいろな意見が出たので、今まで話し合ったことを受けて、「音楽科の先生に相談すること」と「自分たちで取り組むこと」に整理してみました。どうでしょうか。

石川 先生や学級のみんなに伝える言い方になっていてよいと思います。この内容をみんなにどのように伝えるかが大切ですね。

大森 そうですね。では、この「自分たちで取り組むこと」は、学級のみんなにどのように伝えるとよいでしょうか。

大森 この画面をオンライン上の学級のページに載せるのがよいと思います。タブレット端末を見て、取り組むことをいつでもまとめて確認することができると、練習するときに気を付けることができると思います。

石川 私は、練習ごとに一つずつ取り組むことを呼びかけていくのがよいと思います。一つ一つしっかりと意識しながら練習できると思うからです。

山下 ④「美しい歌声を響かせよう」という目標に向けて練習するために、学級のみんなにどのように伝えたらよいでしょうか。

松阪市の生徒の解答状況及び授業改善方策

誤答は条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答しているものが一番多く、15.9%であった。また、無解答率も高い。自分の考えとその理由を述べることはできているが、話し合いの中で示された複数の意見を踏まえ、それらに関連付けながら考えをまとめることに課題が見られる。指導に当っては、互いの立場や考え、その根拠となる背景を理解しながら話し合い、共通点や相違点を整理してよりよい結論を導く学習活動の充実が求められる。

	松阪市	全国
正答率	47.9	52.7
無解答率	16.2	14.7

2. 教科に関する調査結果（中学校数学）

7

出題の趣旨 統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる

6（3） 手順にしたがってできたAとBについて、 $A - B$ の値がどんな数になるかを、選んだ2数の差に着目して説明する

〔6〕 次の手順で、2つの3けたの自然数をつくります。

手順

- ◇ 1から9までの自然数の中から異なる2つの数を選ぶ。それを「選んだ2数」と呼ぶ。（例：1と2）
- ◇ 選んだ2数の大きい方を百の位と一の位とし、小さい方を十の位としてできた3けたの自然数をAとする。（例：212）
- ◇ 選んだ2数の小さい方を百の位と一の位とし、大きい方を十の位としてできた3けたの自然数をBとする。（例：121）

陸斗さんと夏帆さんは、上の手順にしたがってできたAとBについて、 $A + B$ の値がどんな数になるかを調べました。

選んだ2数が1と2のとき、Aは212、Bは121となり、
 $A + B = 212 + 121 = 333 = 111 \times 3 = 111 \times (1 + 2)$

選んだ2数が3と5のとき、Aは535、Bは353となり、
 $A + B = 535 + 353 = 888 = 111 \times 8 = 111 \times (3 + 5)$

選んだ2数が2と7のとき、Aは727、Bは272となり、
 $A + B = 727 + 272 = 999 = 111 \times 9 = 111 \times (2 + 7)$

これらの結果から、陸斗さんは次のように予想しました。

陸斗さんの予想

手順にしたがってできたAとBについて、
 $A + B$ の値は、選んだ2数の和の111倍になる。

	松阪市	全国
正答率	39.5	44.6
無解答率	29.3	26.5

令和8年度
【中学校数学】
報告書 大問6
授業アイデア例



国立教育政策研究所

〔3〕 7ページの陸斗さんの予想がいつでも成り立つことを文字を用いて説明した陸斗さんと夏帆さんは、次に、手順にしたがってできたAとBについて、 $A - B$ の値がどんな数になるかを考えることにしました。

選んだ2数が1と3のとき、 $A - B = 313 - 131 = 182$
 選んだ2数が4と7のとき、 $A - B = 747 - 474 = 273$
 選んだ2数が5と9のとき、 $A - B = 959 - 595 = 364$

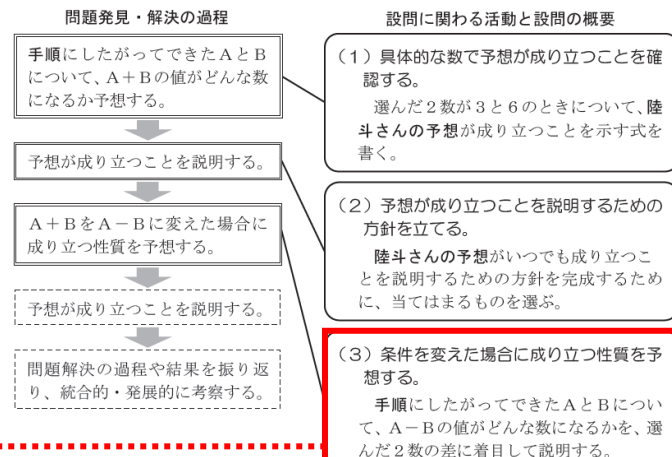
二人は、 $A - B$ の値について話し合っています。

夏帆さん「182、273、364は、どんな数なのかな。」
 陸斗さん「例えば364は、選んだ2数の5と9の差である4と関係があるかもしれないね。」
 夏帆さん「選んだ2数の差の何倍かになっていないかな。」

手順にしたがってできたAとBについて、 $A - B$ の値は、選んだ2数の差に着目すると、どんな数になると予想できますか。7ページの陸斗さんの予想のように、下の□に当てはまることがらを「は、……になる。」という形で書きなさい。

手順にしたがってできたAとBについて、

【図1】 問題発見・解決の過程と設問との対応(解説資料から)



正答の条件

「○○は、◇◇になる。」という形で、次の(a)、(b)について記述しているもの。
 (a) ○○が、「 $A - B$ の値」である。
 (b) ◇◇が、「選んだ2数の差の91倍」である。

正答例

$A - B$ の値は、選んだ2数の差の91倍になる。

松阪市の生徒の
解答状況及び
授業改善方策

大問6は、問題発見・解決の過程に関わる小設問3問で構成されており【図1】、全国平均と比較した正答率の差、無解答率の差は、3問のうち(3)で最も大きかった。誤答のうち、最も多かったのは、正答の条件の(a)について記述しているが、成り立たない事柄を記述している解答だった。「 $A - B$ 」の値に着目することはできているが、「 $A + B$ 」の値について考察した過程と関連付けることができず、 $\square \times (A - B)$ の $\square$ の値を見出すことができなかったためと考えられる。数の性質について、成り立つ事柄を予想し、その特徴を数学的に説明できるように指導することが大切である。また、解決された問題やその解決の過程を振り返り、問題の前提を変えた場合にどうなるかを考える活動を設定し、統合的・発展的に考察できるようにすることが大切である。

2. 教科に関する調査結果（中学校英語）

8

出題の趣旨

音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる

11①②

与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く

留学生のメイ(Mei)に昨日の出来事について質問し、分かったことを下の【表】にまとめました。【表】を見て、例を参考にしながら、①メイが行った場所、②メイがしたことを、それぞれ英文1文で書きなさい。

【表】

<解答欄> ※半角で入力してください

例

メイが起きた時刻	7 時(seven)
----------	------------

例

Mei got up at seven.

①

メイが行った場所	公園(the park)
----------	--------------

①

②

メイがしたこと	テニス(tennis)
---------	-------------

②

①は不規則動詞、②は規則動詞の過去形を理解し、その知識を活用して書くことが求められる。

11①

松阪市

全国

11②

松阪市

全国

正答率

51.5

58.9

正答率

45.7

52.7

無解答率

2.9

2.5

無解答率

3.5

3.0

正答例

① Mei went to the park.

② Mei played tennis.

松阪市の生徒の
解答状況及び
授業改善方策

「昨日の出来事について書く」「人物や物事について説明する」などの場面や状況に応じて、適切な時制や文構造、主語を選択して英文を書くことが求められる。誤答からは、場面に応じて過去形や現在形を使い分けられていないことや、「主語＋動詞」の基本的な文構造の理解が十分ではないこと、また、「I」「you」以外の主語を用いて表現することに課題が見られた。場面や状況から必要な文法事項を判断する活動を充実させるとともに、既習事項と新たに学習する文法事項を比較・整理しながら理解を深めることが大切である。また、日記や紹介文の作成、絵や写真の説明、調べたことの報告などの言語活動を通して、多様な主語を用いた「主語＋動詞」の文構造を意識して表現する活動を丁寧に行うことも大切である。

関連する指導資料

中学校英語指導事例集(令和3年4月)
「語や文法事項等を正しく用いて表現する」

中学校英語指導事例集(令和7年3月)
「言語の働きを理解し、場面や状況に応じて表現を使い分ける」

映像資料



国立教育政策研究所

指導資料



国立教育政策研究所

映像資料



国立教育政策研究所

指導資料



国立教育政策研究所

3. 児童生徒質問調査結果



(1) 基本的生活習慣、学習習慣等

□ : 前回調査に比べて改善傾向にあるもの

■ : 全国の割合を上回っているもの

数値 : 肯定的な回答の割合、又は※印の頻度等に回答した割合

番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	80.0	82.5	82.8	79.8	81.7	80.5
(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	88.6	90.8	90.7	92.2	92.7	92.4
(22)	分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	74.3	79.9	79.4	77.6	79.7	78.2
(23)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）※1時間以上	44.1	45.4	49.9	64.0	61.7	61.6
(24)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）※1時間以上	12.6	12.7	13.4	18.2	13.0	12.0
(25)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）※1時間以上	32.0	33.0	39.0	49.0	48.9	52.5
(26)	学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）※10分以上	45.1	44.7	46.1	29.8	31.4	33.6

<松阪市全体的特徴的な傾向>

- ・小学校では、基本的生活習慣や学習習慣に関する項目で全国平均を下回る結果となった。特に家庭学習に取り組む時間の確保や主体的に学習を調整する力の向上が課題として挙げられる。
- ・中学校では、平日の家庭学習時間やICT機器を活用した学習に関する項目で全国平均を上回った。一方で、読書習慣や休日の学習時間には課題が見られる。



(2) 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等

番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
(8)	自分には、よいところがあると思いますか	84.1	84.7	85.6	85.1	84.1	84.0
(9)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	93.8	92.2	91.4	89.9	91.3	90.9
(10)	将来の夢や目標を持っていますか	82.1	81.6	81.8	67.1	68.4	67.6
(11)	人が困っているときは、進んで助けていますか	93.6	93.0	92.7	90.8	90.7	90.8
(12)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.5	96.1	96.2	95.8	95.4	95.1
(13)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	67.9	70.5	70.6	70.3	72.7	71.9
(14)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	94.5	95.8	95.8	95.8	96.2	95.9
(15)	学校に行くのは楽しいと思いますか	85.2	84.8	85.7	84.5	85.8	85.4
(16)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	74.9	77.8	77.9	79.4	80.4	78.6
(17)	友達関係に満足していますか	91.3	91.2	91.1	91.3	91.1	91.2
(21)	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	93.1	92.8	92.5	91.2	91.7	91.0

<松阪市全体的特徴的な傾向>

- ・小学校では(9)(10)(11)(12)など、自己有用感や規範意識等に係る項目で全国平均を上回った。また、中学校では(8)(16)(17)(21)など、自己肯定感や学校生活等への満足感に係る項目で全国平均を上回った。
- ・小中ともに、友達関係への満足感や幸福感に関する項目でも高い割合を示しており、学校生活に肯定的な回答をしている。

3. 児童生徒質問調査結果

10

(3)主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

□ : 前回調査に比べて改善傾向にあるもの

□ : 全国の割合を上回っているもの

数値 : 肯定的な回答の割合、又は※印の頻度等に回答した割合

番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
(38)	これまでに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	60.7	63.9	66.4	63.4	63.5	65.5
(39)	これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	73.0	76.9	77.6	76.5	80.6	78.8
(40)	これまでに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	69.4	72.8	73.4	69.6	72.5	70.8
(41)	これまでに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	83.0	81.7	80.8	79.0	81.1	78.9
(42)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	85.5	86.4	85.7	85.9	87.7	87.0
(43)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	77.4	79.5	78.4	78.1	80.4	79.0
(44)	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか（新規）	80.0	81.4	80.8	78.6	80.3	78.0
(45)	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	89.2	88.5	87.3	83.4	86.8	85.2
(46)	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	91.3	91.3	91.4	91.7	92.9	92.4

<松阪市全体の特徴的な傾向>

- ・小学校では(41)(45)について、中学校では(41)(44)について、全国平均を上回り、課題の解決に向けて主体的に学ぶことや学習内容を振り返ることにに関する項目で改善傾向が見られた。
- ・小中学校ともに多くの項目で全国平均を下回った。改善傾向が見られる項目もあるが、引き続き授業改善に向けた取組が求められる。

(4)総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道德

番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
(47)	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	70.7	74.6	79.9	74.9	76.4	80.8
(49)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	79.3	80.1	81.5	81.5	84.9	84.5
(50)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	74.7	77.7	77.3	76.6	78.4	77.8
(51)	道德の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	88.0	86.9	86.9	91.2	91.0	91.3

<松阪市全体の特徴的な傾向>

- ・小学校では(47)(49)について、全国の平均を下回るが、前回調査結果と比べて改善している。
- ・小学校では(51)について、全国平均を上回った。
- ・中学校では(47)について、前回調査結果と比べて改善が見られる。



3. 児童生徒質問調査結果

11

(5) 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語、算数・数学、英語）



□：前回調査に比べて改善傾向にあるもの

■：全国の割合を上回っているもの

(6) ICTを活用した学習状況等



数値：肯定的な回答の割合、又は※印の頻度等に回答した割合

番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
(52)	国語の勉強は得意ですか	52.6	58.6	60.4	49.8	50.2	51.6
(53)	国語の勉強は好きですか	47.7	54.1	57.4	53.1	56.7	57.2
(54)	国語の授業の内容はよく分かりますか	80.5	82.1	81.5	75.8	80.5	76.8
(55)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	91.1	90.6	90.4	88.2	89.1	88.2
(60)	算数（数学）の勉強は得意ですか	61.9	62.5	60.1	51.1	52.5	48.5
(61)	算数（数学）の勉強は好きですか	57.9	59.2	57.6	56.2	58.2	56.1
(62)	算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか	81.1	80.7	77.5	78.4	79.9	74.2
(63)	算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	92.6	91.6	91.0	78.4	78.6	76.5
(69)	英語の勉強は得意ですか（新規）	54.7	58.7	59.8	36.1	40.5	39.5
(70)	英語の勉強は好きですか（R5と比較）	61.9	66.0	66.7	46.3	50.1	51.2
(71)	英語の授業の内容はよく分かりますか（R5と比較 ※中のみ）	—	—	—	62.5	67.7	64.2
(72)	英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか（R5と比較 ※中のみ）	—	—	—	87.8	87.1	87.6

<松阪市全体の特徴的な傾向>

- ・小学校では(55)(60)(61)(62)(63)について、中学校では(60)(61)(62)(63)(72)について、全国平均を上回った。特に、算数・数学に関する項目で成果が見られる。
- ・小学校では(54)(55)について、中学校では多くの項目で改善傾向が見られるが、学習内容の理解につながる授業改善とともに、学習に対する興味・関心を高める取組の充実が求められる。

番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
(35)	授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか ※週1回以上	92.3	89.8	87.9	96.4	95.7	92.9
(36-1)	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができますと思いますか	75.2	78.0	79.1	85.5	86.0	84.8
(36-2)	あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができますと思いますか	84.7	84.3	84.9	90.4	90.9	90.9
(36-3)	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができますと思いますか	66.2	69.5	69.5	72.9	72.2	69.4
(36-4)	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますと思いますか	62.7	68.8	74.6	74.6	77.1	80.0

<松阪市全体の特徴的な傾向>

- ・小学校では(35)以外の項目について、全国平均を下回ったが、多くの項目で改善傾向が見られる。
- ・中学校では(35)(36-1)(36-3)について、全国平均を上回り、ICTを活用した学習や情報整理に関する力に成果が見られる。



(7) 地域や社会に関わる活動の状況等

番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
(33)	地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思いますか	80.5	82.3	80.1	74.8	74.3	72.3

<松阪市全体の特徴的な傾向>

- ・小中学校ともに全国平均を上回り、小学校において改善傾向が見られる。
- ・地域や社会をよりよくするために何かしたいという意識が高く、実際の地域活動や社会参画につながる取組の成果が見られる。

4. 学校質問調査結果

12

(1) 校内体制及び学校間連携等

(2) 家庭や地域との連携等

□ : 前回調査に比べて改善傾向にあるもの

■ : 全国の割合を上回っているもの

数値 : 肯定的な回答の割合、又は※印の頻度等に回答した割合

番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
(17)	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	96.7	97.0	97.3	91.0	95.9	95.9
(18)	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	100	98.8	97.8	81.9	93.9	93.7
(44)	前年度までに、創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組を行いましたか	93.6	91.1	89.3	81.9	96.6	92.7
小 (76) 中 (84)	前年度までに、近隣等の小中学校と、教科的教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか	80.6	70.6	67.0	90.9	83.0	72.0

番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
小 (79) 中 (87)	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか	96.8	93.0	89.1	90.9	90.5	84.4
小 (81) 中 (89)	前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか	100	97.6	96.6	90.9	95.9	91.2
小 (82) 中 (90)	前年度までに、家庭学習について、児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか	96.8	94.1	91.1	72.7	86.4	85.0
小 (83) 中 (91)	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かしましたか	87.1	94.2	90.5	72.7	85.0	83.2

<松阪市全体の特徴的な傾向>

- ・小学校では(18)(44)(76)について、中学校では(84)について、全国平均を上回った。特に、小中学校間の教育課程の接続や共通の取組に関する項目で成果が見られた。
- ・中学校では、校内体制の充実や組織的な授業改善に向けた取組を一層推進する必要がある。

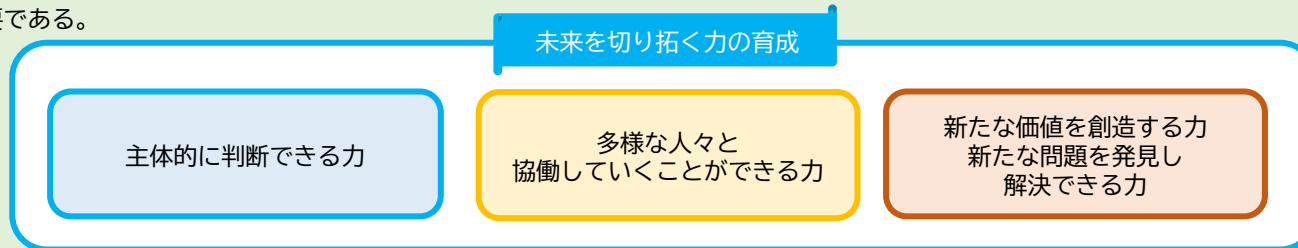
<松阪市全体の特徴的な傾向>

- ・小学校では(79)(81)(82)について、中学校では(87)について全国平均を上回った。小学校で(79)(82)について改善傾向が見られ、家庭学習や家庭・地域との連携に関する取組が進んでいる。
- ・家庭学習の取組を児童生徒の学習改善につなげるため、家庭と連携した継続的な支援が必要である。



基本的な考え方

文部科学省では、これからの予測困難な社会を生き抜く子どもたちに必要な力として、教室の中だけで学びを完結させるのではなく、自ら課題を見つけ、考え、判断し、行動する力、そして仲間とともによりよい社会や人生を切り拓く力の育成を掲げている。松阪市においては、このような力を「未来を切り拓く力」と位置づけ、各学校では、子どもたちに未来社会を生き抜くための資質・能力を、より確実に育成する取組を進めてきた。教育活動の質を高めるためには、子どもたちの学びの姿や日々の教育活動を振り返り、改善・充実を図っていくことが重要である。



松阪市教育委員会の具体的な取組

①「本居宣長さんの教え 5つのチャレンジ」を活用した学校・家庭・地域が一体となった教育体制の構築

子どもたちに、自らの可能性を発揮し、他者との絆を大切にしながら、失敗を恐れず夢と志をもって挑戦し、豊かな未来を切り拓く力を育成するため、「本居宣長さんの教え 5つのチャレンジ」を制定し、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を認識し、教育力を高めながら、一体となって子どもたちに「未来を切り拓く力」を育む取組を進める。



【生活習慣を確立する】

【主体的に学ぶ】

【説明力を伸ばす】

【考えを深める】

【学んだことを活用する】

5つのチャレンジ
応援サイト



②「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

「何を学ぶか」だけではなく、「どのように学ぶか」も大切にしたい授業づくりの推進

- 「未来を切り拓く力」育成に向けた授業改善
- 教科等の特質に応じた見方・考え方を重視した授業づくり
- 総合的な学習の時間等における探究的な学習の推進
- ICTの利活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的な取組の充実

③カリキュラム・マネジメントの確立

学校のエデュケーション活動を常に検証し、見直しを図り、学習の成果を高めるための教育活動の改善

- 各教科等の学習内容を横断的な視点で捉えた配列の工夫
- 各学校のめざす姿や資質・能力の育成につながるPDCAサイクルの確立
- 地域等の外部の資源を含めた、効果的な指導計画の作成・活用
- 学校間による取組の共有

④非認知能力（自己肯定感・自己有用感等）の育成に向けた取組の充実

- 学級経営マイスター事業・スリンプルプログラムの推進
- Q-U（学級満足度調査）の活用

6. 調査結果の分析 (1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

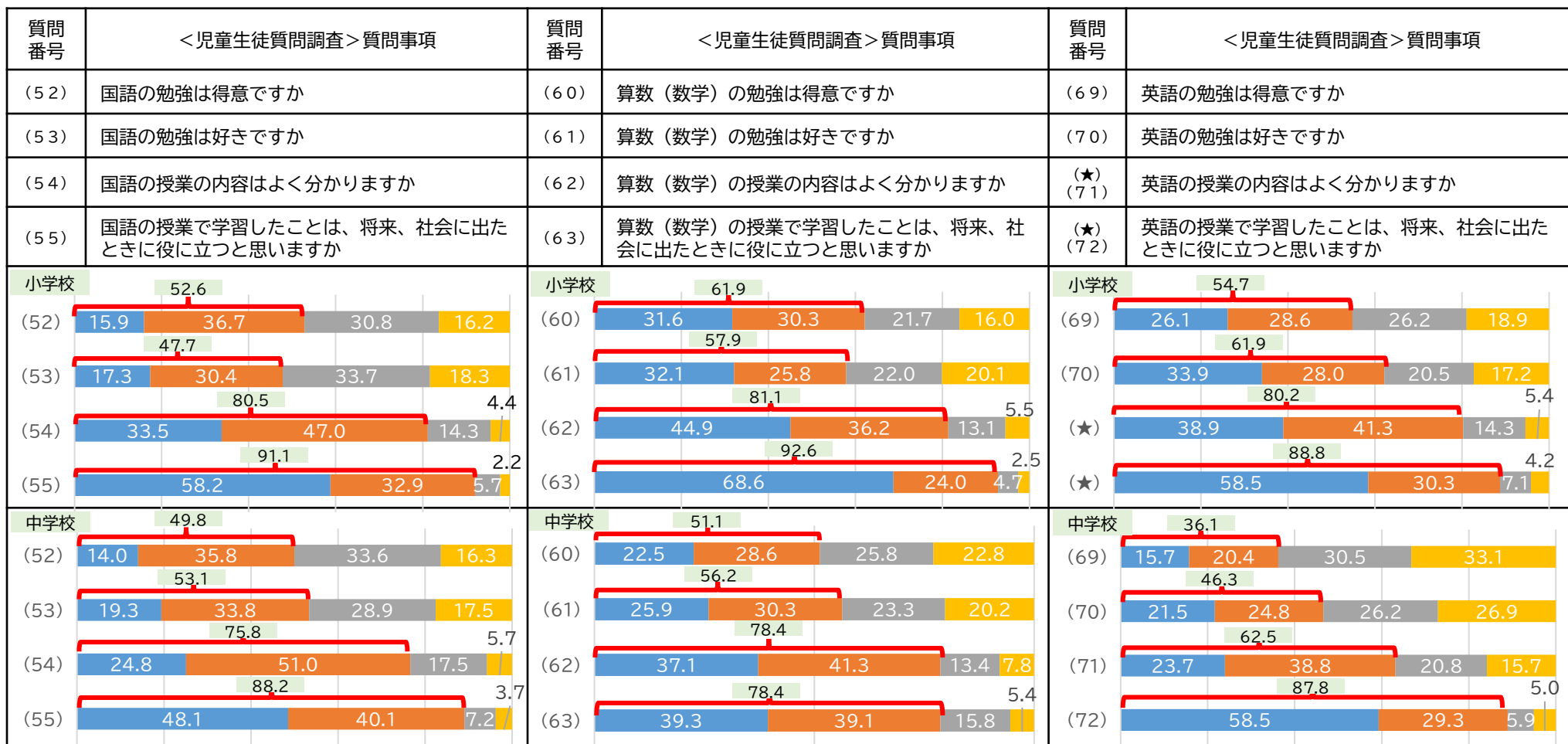
児童生徒質問調査と学校質問調査、教科に関する調査に係る分析を行った。次ページからは、児童生徒質問調査結果と教科に関する調査結果からクロス分析を加え、学力との相関関係について考察した。児童生徒質問調査に肯定的に回答した児童生徒の方が、教科に関する調査の平均正答率が高い傾向が見られた質問項目の中から、主な質問項目を抜粋して掲載している。関連する学校質問調査についても考察した。また、学力との相関関係だけでなく、異なる児童生徒質問調査の結果どうしについてクロス分析を加え、関連する項目についても考察した。

(ア) 学習に対する興味・関心や授業の理解度等

■当てはまる ■どちらかと言えば当てはまる ■どちらかと言えば当てはまらない ■当てはまらない

※数値は四捨五入した値のため、合計が100%にならない場合があります。

※(★)は松阪市が小学校6年生を対象に行っている小学校外国語教育アンケートの数値です。



＜松阪市全体の特徴的な傾向＞

小中学校ともに、「授業の内容は分かる」「将来、社会に出たときに役に立つ」と感じている児童生徒の割合は比較的高い一方で、「好き」「得意」とする割合は低い傾向が見られる。このことから、学習内容の理解を自信や学ぶ楽しさにつなげていくことが重要である。子どもたちの「好き」を育み、「得意」を伸ばすために、児童生徒一人ひとりの興味・関心やよさを生かした学習活動を充実させるとともに、学びと実社会のつながりを実感できる授業づくりが求められる。

(イ) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

※ は、中学校英語(3技能)のIRTスコアを表示

質問番号	＜児童生徒質問調査＞質問事項	質問番号	＜児童生徒質問調査＞質問事項
(39)	これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	(40)	これまでに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか
＜学力とのクロス分析＞ ■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない 小学校 中学校		＜学力とのクロス分析＞ ■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない 小学校 中学校	
質問番号	＜学校質問調査＞質問事項	小学校	中学校
(36)	各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	83.9	81.8

(イ) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

※ は、中学校英語(3技能)のIRTスコアを表示

質問番号	＜児童生徒質問調査＞質問事項	質問番号	＜児童生徒質問調査＞質問事項
(43)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	(44)	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか
＜学力とのクロス分析＞ ■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない 小学校 国語 算数 67.8 61.8 57.8 45.6 62.8 56.6 52.2 36.3 中学校 国語 数学 66.1 60.2 55.7 39.8 61.7 55.2 44.1 34.0 英語 502 477 442 393		＜学力とのクロス分析＞ ■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない 小学校 国語 算数 67.4 61.4 57.6 44.2 62.4 55.0 54.0 41.1 中学校 国語 数学 65.0 60.6 57.2 48.7 59.1 55.6 48.5 38.3 英語 493 480 450 421	
質問番号	＜学校質問調査＞質問事項	小学校	中学校
(34)	習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	83.9	100

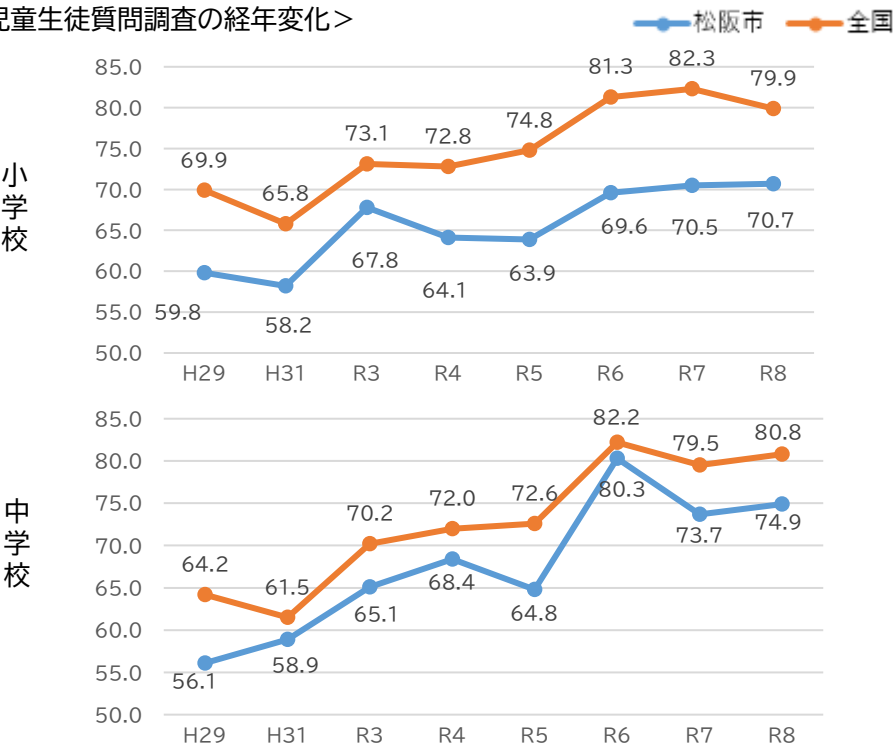
＜松阪市全体の特徴的な傾向＞課題の解決に向けて自分で考えたり、各教科で学んだことを生かしながら活動したりしていると回答した児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られた。また、学習した内容を振り返り、次の学習につなげたり、学習や生活の中で活用したりできると回答した児童生徒ほど学力が高い傾向も見られた。これらのことから、学習した内容を関連付けながら自ら課題解決に取り組む姿勢や、学びを振り返り活用する姿勢が学力と関連していることがうかがえる。今後も、児童生徒が学習過程を見通しながら主体的に考え、学んだことを生かして課題解決に取り組む授業づくりの充実が求められる。

(ウ) 総合的な学習の時間における探究の過程

※ は、中学校英語(3技能)のIRTスコアを表示

質問番号	＜児童生徒質問調査＞ 質問事項
(47)	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

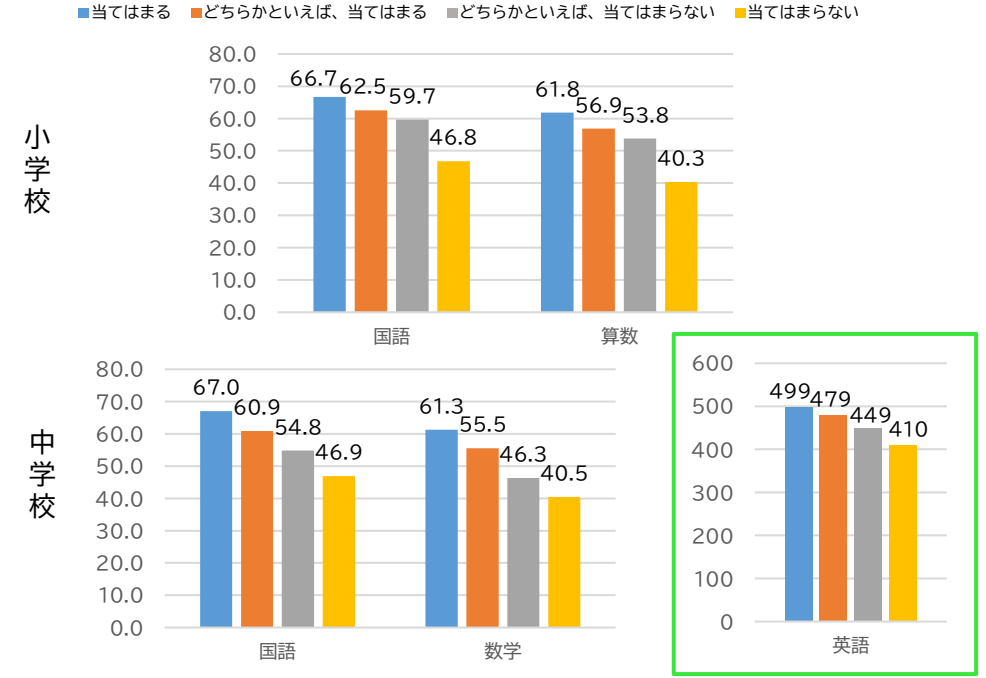
＜児童生徒質問調査の経年変化＞



＜松阪市全体の特徴的な傾向＞

総合的な学習の時間において、自ら課題を設定し、情報を収集・整理・分析してまとめたり表現したりする学習活動に取り組んでいると回答した児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られた。また、学校質問調査においても、各教科で身に付けたことを課題解決に生かす活動や、探究の過程を意識した指導を行っている学校の割合が高い。これらのことから、教科等で身に付けた資質・能力を活用しながら探究的に学ぶことが学力と関連していることがうかがえる。今後も、児童生徒が自ら課題を設定し、情報を整理・分析しながら課題解決に取り組む探究的な学習の充実が求められる。

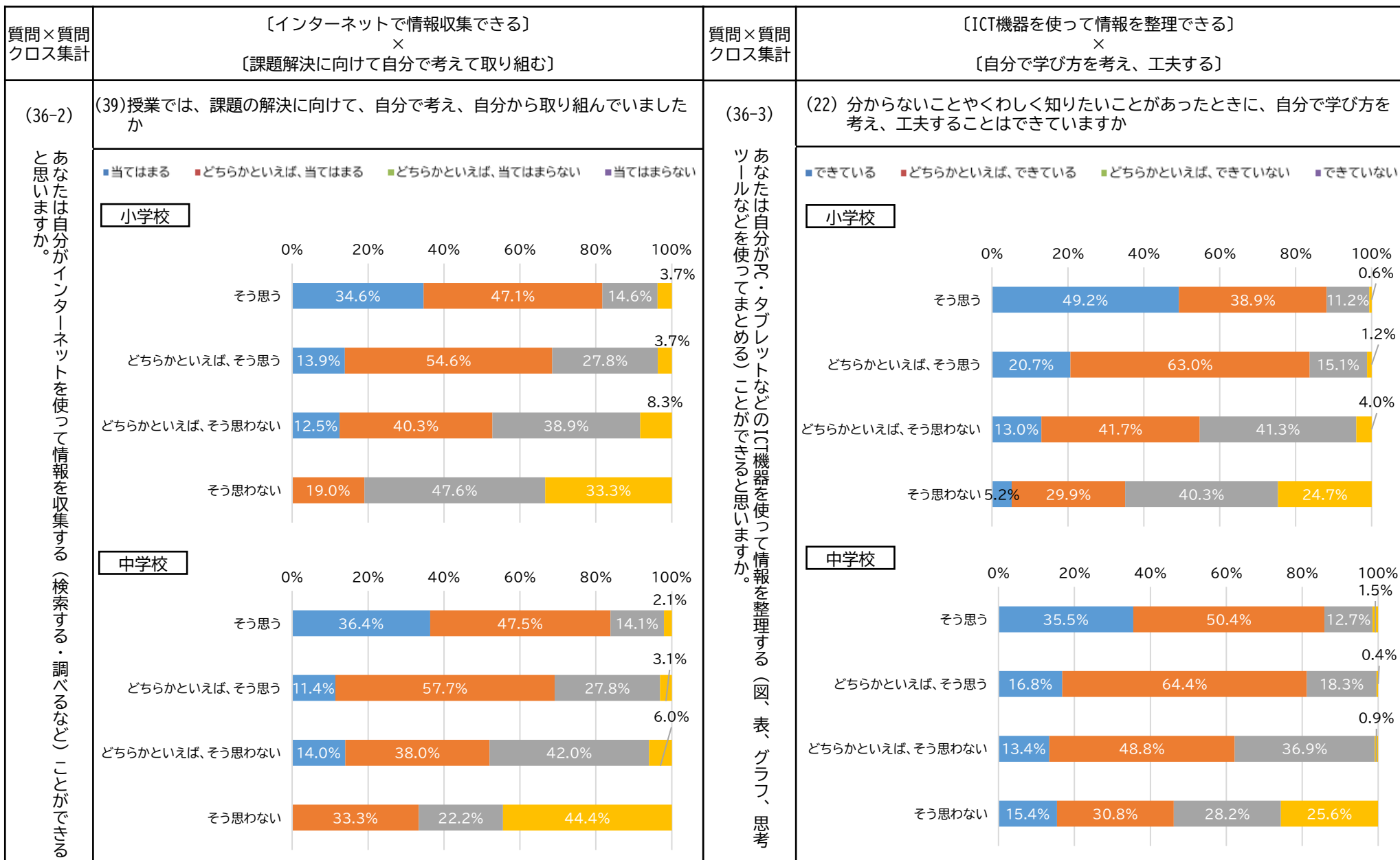
＜学力とのクロス分析＞



質問番号	＜学校質問調査＞ 質問事項	小学校	中学校
(18)	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	100	81.9
(36)	各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	83.9	81.8
(37)	教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか	90.4	81.8
(39)	総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	83.9	100

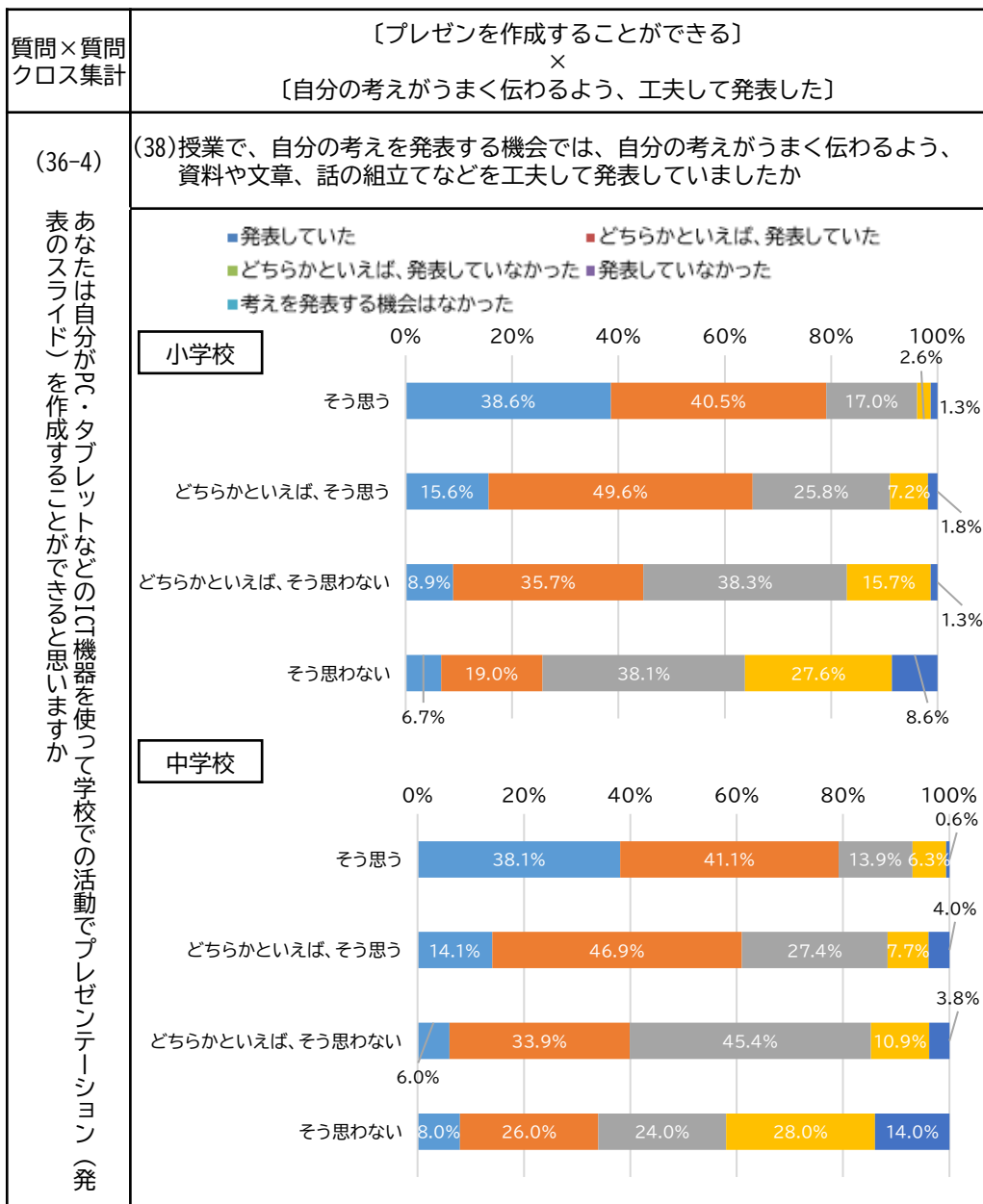
(工) ICTを活用した学習状況

※数値は四捨五入した値のため、合計が100%にならない場合があります。



(工) ICTを活用した学習状況

※数値は四捨五入した値のため、合計が100%にならない場合があります。



質問番号	<学校質問調査> 質問事項	小学校	中学校
小(61) 中(69)	児童(生徒)が自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)では、児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか ※週3回以上	87.1	100
小(62) 中(70)	児童(生徒)が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか ※週3回以上	58.1	81.9
小(67) 中(75)	児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか ※毎日持ち帰らせている	96.8	100

<松阪市全体の特徴的な傾向>

ICT活用に関するクロス集計では、小・中学校ともに、インターネットを活用して情報収集ができる児童生徒や、ICT機器を用いて情報を整理したりプレゼンテーション資料を作成したりできる児童生徒ほど、「自分で考えて課題解決に取り組む」「学び方を工夫する」「自分の考えが伝わるよう工夫して発表する」と回答する割合が高い傾向が見られた。また、学校質問調査では、情報収集や発表場面におけるICT機器の活用が進んでいることがうかがえる。各教科等において、課題の設定から情報収集、整理・分析、まとめ・表現といった探究の過程に主体的に取り組む児童生徒ほど各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られた。本調査結果からは、ICT機器の活用が探究の過程における情報収集・整理・表現を支え、主体的な学びの実現につながっていることが示唆される。今後も、ICTを単なる情報検索の手段として活用するだけでなく、収集した情報を整理・分析し、自らの考えを表現・発信する活動の充実を図ることで、探究的な学びの一層の充実が期待される。



6. 調査結果の分析 (2) カリキュラム・マネジメントの確立

20

(ア) 教科等横断的な視点

質問番号	＜学校質問調査＞質問事項	小学校	中学校
(35)	児童（生徒）に対して、前年度までに、関連する既習事項を振り返り、知識を総合的に関連付ける学習活動を行いましたか（新規）	93.6	81.8
質問番号	＜学校質問調査＞質問事項	小学校	中学校
(36)	児童（生徒）に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	83.9	81.8
質問番号	＜学校質問調査＞質問事項	小学校	中学校
(37)	児童（生徒）に対して、前年度までに、教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか	90.4	81.8

(イ) PDCAサイクルの確立

質問番号	＜学校質問調査＞質問事項	小学校	中学校
(17)	児童（生徒）の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	96.7	91.0
質問番号	＜学校質問調査＞質問事項	小学校	中学校
(44)	児童（生徒）に対して、前年度までに、創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組を行いましたか	93.6	81.9
質問番号	＜学校質問調査＞質問事項	小学校	中学校
小(84) 中(92)	令和7年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	100	100

(ウ) 地域との連携

質問番号	＜学校質問調査＞質問事項	小学校	中学校
(18)	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	100	81.9
質問番号	＜学校質問調査＞質問事項	小学校	中学校
小(76) 中(84)	前年度までに、近隣等の小学校（中学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか	80.6	90.9
質問番号	＜学校質問調査＞質問事項	小学校	中学校
小(78) 中(86)	コミュニティ・スクールの仕組みや地域学校協働活動等の取組を活用して、学校の運営や教育活動に関し、児童（生徒）が意見を表明することが出来る取組を行いましたか（新規）	54.8	63.7
質問番号	＜学校質問調査＞質問事項	小学校	中学校
小(79) 中(87)	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まりましたか	96.8	90.9
質問番号	＜学校質問調査＞質問事項	小学校	中学校
小(80) 中(88)	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、学校教育活動の充実や学校課題の解決だけではなく、地域及び家庭の課題解決や地域活動の担い手育成に貢献していたと思いますか（新規）	90.3	90.9

＜松阪市全体の特徴的な傾向＞

「教科等横断的な視点」
・小中学校とも(36)について、前回調査結果と比べて改善が見られた。各教科で身に付けたことを発揮させる機会を充実させていく意識の高まりがうかがえる。

「PDCAサイクルの確立」
・小学校では(84)について、中学校では(92)について、前年度と同様、肯定的な回答の割合が100%となっており、校内研修等の場で、自校の全国学力・学習状況調査の結果分析シート（未来を切り拓く力育成シート）等を活用することが定着してきている。

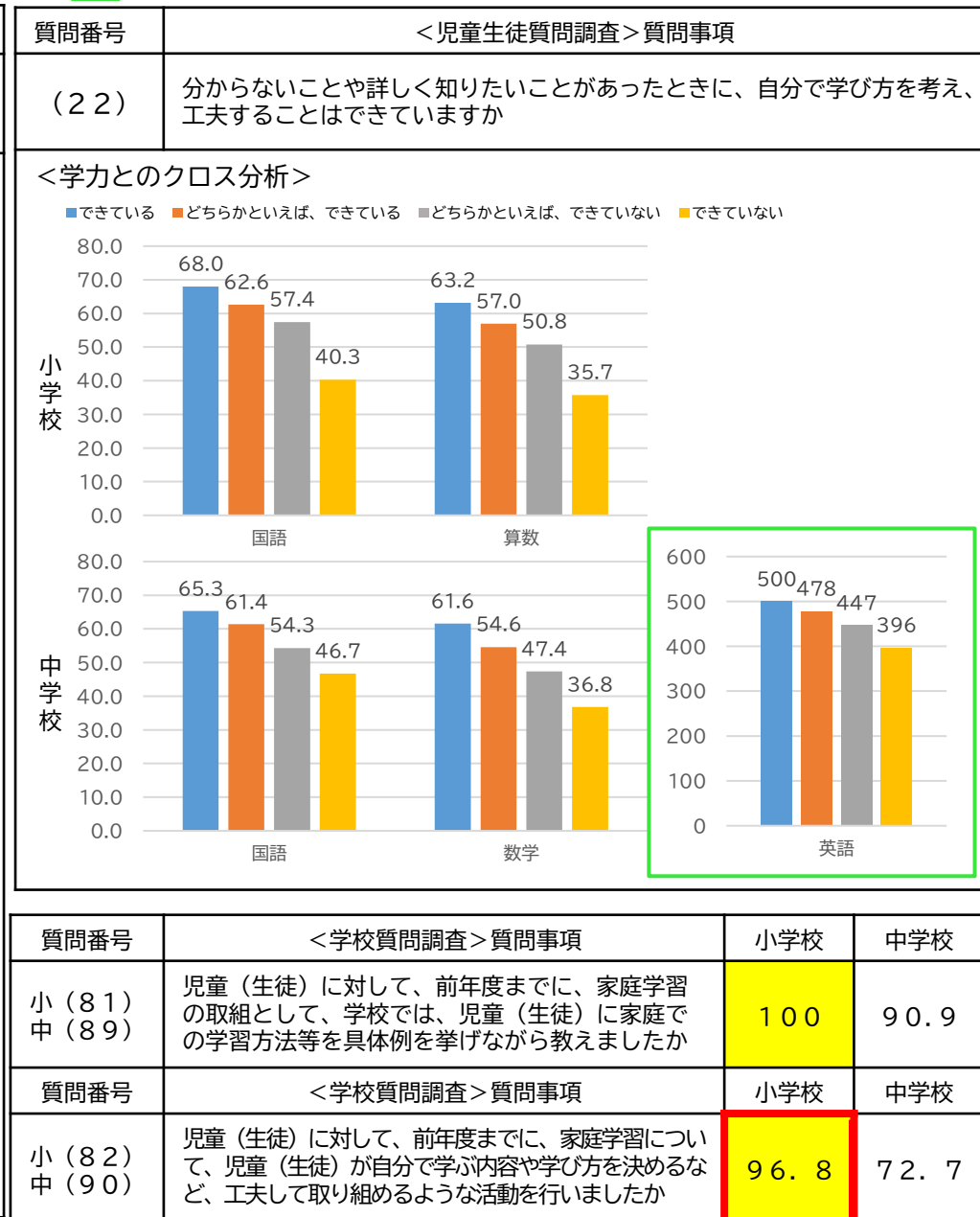
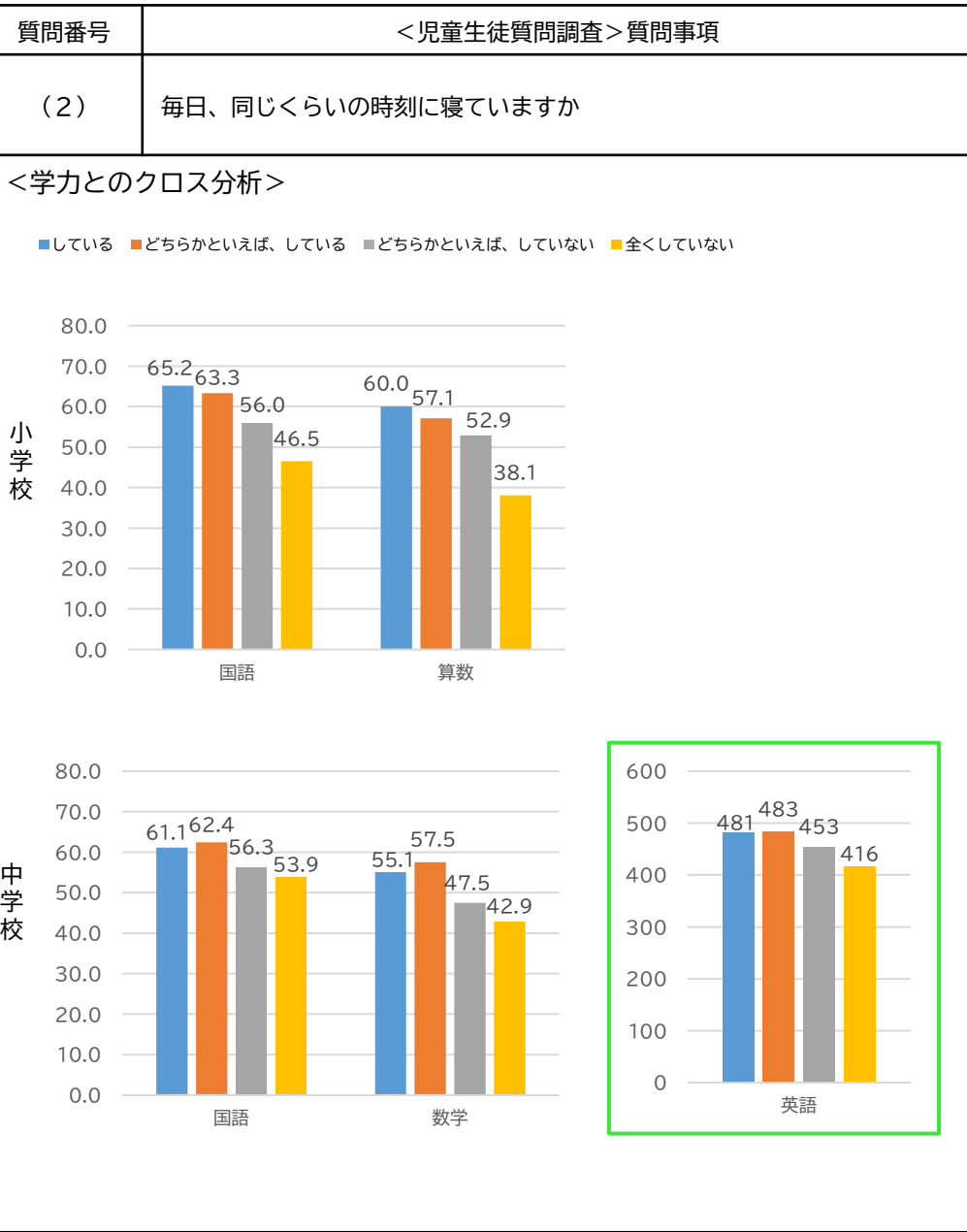
「地域との連携」
・全体的に全国の割合を上回っており、小中学校ともに(78)(86)については、全国の割合を大きく上回っている。コミュニティ・スクールにおける熟議等を活用し、児童会や生徒会の連携を図りながら取組が進められていることがうかがえる。

6. 調査結果の分析 (2) カリキュラム・マネジメントの確立

21

(工) 家庭との連携

※ は、中学校英語(3技能)のIRTスコアを表示

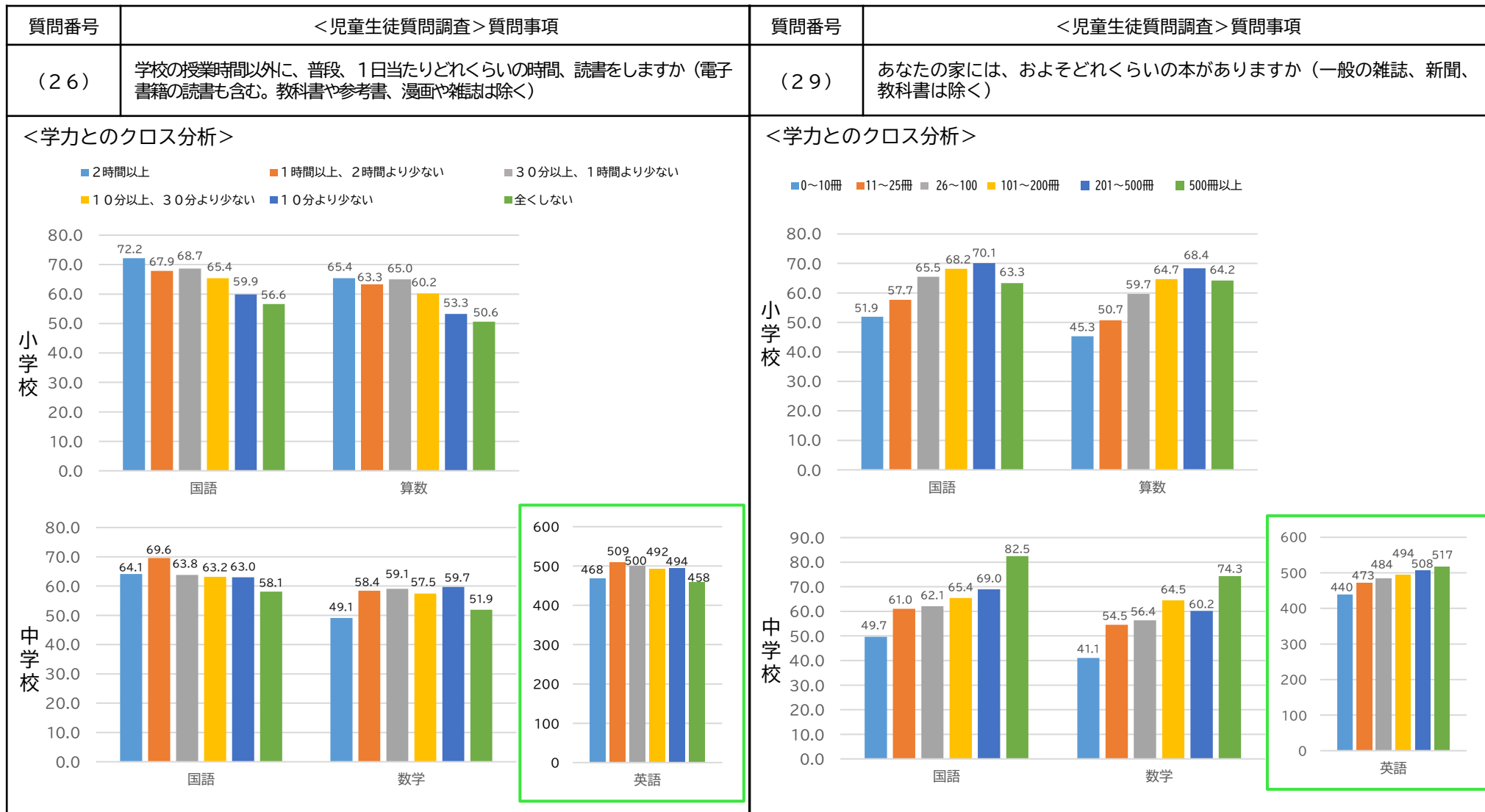


6. 調査結果の分析 (2) カリキュラム・マネジメントの確立

22

(工) 家庭との連携

※ は、中学校英語(3技能)のIRTスコアを表示



＜松阪市全体的特徴的な傾向＞

「毎日、同じくらいの時刻に寝る」「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え工夫する」と回答している児童生徒ほど、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。また、家庭にある本の冊数が多い児童生徒ほど学力が高い傾向が見られる。このことから、児童生徒の主体的な学びを支える生活習慣や読書環境の充実が重要であると考えられる。さらに、日常的に読書をしている児童生徒ほど、国語を中心に平均正答率が高い傾向が見られる。読書習慣の充実、文章を読み取る力や学習の基盤となる力を育む上で重要であると考えられる。

7. 全国学力・学習状況調査結果を踏まえた今後の主な取組

(1) 松阪市教育委員会の施策の充実

- 学力向上推進協議会の設置
 - ・教育ビジョンに示された「確かな学力」等の育成に係る方策等の立案及び成果等の検証
- 「M-探究プロジェクト」による取組の推進
 - ・自ら課題を設定・解決する学びを通して、「未来を切り拓く力」と非認知能力を育成
 - ・教育ログを活用した学習評価と授業改善の推進
- 非認知能力（自己肯定感・自己有用感等）の育成に向けた取組の充実
 - ・学級経営マイスター事業・スリンプルプログラムの推進
 - ・Q-U及びWEBQU（学級満足度調査）の活用
- 教育イノベーションプロジェクトの推進
 - ・情報活用能力の育成と質の高い探究的な学びの実現に向けた実践・研究
 - ・教育ログ等のデータ活用による学習評価と授業改善の推進
- まつさかS TEAMプロジェクトの推進
 - ・医療機関や大学、企業と連携し、子どもが実社会に触れ、働く意義や社会とのつながりを学ぶ機会を創出
- 松阪市標準学力調査の活用
 - ・児童生徒の課題を早期に把握し、一人ひとりの子どもに応じたきめ細かな指導を進めるための支援及び授業改善
- 教務担当者会議、教科担当者会議等の充実
 - ・指導と評価の一体化の推進
 - ・総合的な学習の時間等における探究的な学習の推進
- 授業力向上アドバイザー派遣事業の推進
 - ・児童生徒の「未来を切り拓く力」の育成に向けた授業改善と指導力向上の支援
- コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な取組の推進
 - ・子どもも大人も学び合い、育ち合う教育体制の構築

(2) 学校の実践の焦点化

- ①「『主体的・対話的で深い学び』の視点からの授業改善」に関して
 - 「未来を切り拓く力の育成」の実現に向けた授業改善
 - ・子どもたちが主体的に考え、伝え合い、広げ深めることができる学習展開の工夫
 - ・教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせることができる学習活動の設定
 - 総合的な学習の時間等における探究的な学習、教科等横断的な学習の充実
 - 「好き」を育み「得意」を伸ばす授業改善の取組の推進
 - 授業・家庭学習におけるICTの効果的な活用の研究、推進
- ②「カリキュラム・マネジメントの確立」に関して
 - 学校の教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で各教科等の学習内容を配列
 - ・学校全体における言語活動を意識した教育課程の工夫
 - 学校教育の効果の検証と改善
 - ・各学校のめざす姿や資質・能力の育成につながるPDCAサイクルの確立・児童生徒のウェルビーイング向上を視点とした教育活動の充実
 - 地域と連携した教育の推進
 - ・教育課程の趣旨について家庭・地域と共有
 - ・教育内容や教育活動に必要な人的・物的な資源の活用



令和8年10月
松阪市教育委員会

